

新選組

# 土方歳三が愛した女、

## お雪の物語

### 大人の恋は、

### 切ないからこそ面白い

新選組・土方歳三の人生を描いた名著『燃えよ剣』。その史実をドラマチックに仕立てた本作は、司馬遼太郎が生み出した“お雪”という想像上の登場人物により、さらに深みのある物語となりました。本公演は、女優・十朱幸代さんがお雪として舞台上に立ち、二人の恋路を物語るといって、まったく新しい形の朗読劇です。波乱に満ちた二人の人生、けれども純粹で、どこか色気のある大人の恋。十朱幸代さんに、舞台の魅力を伺いました。

取材スタッフ 相馬加奈子  
テキストスタッフ 後藤友介  
六月二十四日@東京・芸能花伝舎

原作ファンをも驚かせる、“お雪”が語る“土方歳三との逢瀬”

「『燃えよ剣』の、しかもお雪をメインにした朗読劇のオフアワーをもらった時は、どう思いましたか？」

「司馬遼太郎の作品で、私が主役？」と、思いもよらぬお話に驚きました。司馬先生の作品と云えば、男性の主人公が描かれているイメージがありますから。それが劇作家・笹部博司さんの斬新なアイデアにより、土方歳三の恋人・お雪の目線で『燃えよ剣』を物語るといって、朗読劇に生まれ変わったん

です。この作品との出会いは大切にしたいと感じています。長い間、お芝居をやってきた集大成を見せられる、そんな作品なんです。

はじめて台本を読んだとき、お雪という一人の女性からみた土方歳三が、とても新鮮に感じました。土方は“男の中の男”というイメージが強いですがね。剣豪でニヒルで。でも、お雪という女性の視点から見ると、土方という男は、ピュアで人間味があつて、思わず寄り添いたくなる男性なんです。このギャップ、世の女性にとっては、たまらないんじゃないでしょうか。

“一人芝居ならではの膨らませ方”

朗読劇ならではの難しさ、面白さはどこでしょう？

今まで様々な役を演じて来ましたが、この舞台では全てをたった一人で演じ分けなくてはなりません。しかも朗読なので、セリフ以外の部分も語らなくてはならない。難しさはありますね。ただ、一人ゆえに膨らませ方は無限大です。相手方があるお芝居だと、演技に突飛な変化は付けづらいのですが、この舞台では、私の中でイメージが出来る上があると、だんだん登場人物が動き出していく。舞台上に立つたびに、少しずつですが、熟していくというか、成長している実感があります。一人芝居の醍醐味です。

本当の“大人の恋”にどっぷり浸る

お雪の印象はいかがでしたか？

昔の女性って、決められた役割の中で生活をしている人が多かったと思います。お雪は違います。子どもでもない未亡人であるからこそ、引きずるものが無かったんだと思うのです。心も、置かれている身の上も自由。自分の気持ちに素直に動ける、現代の女性に通じるものを感じました。だからこそ、非情なリアリストといわれる土方歳三とも、恋ができたんだと思います。そんなお雪が土方を語ると、もうひたすらカッコいい男……。お客様もお雪と一緒に土方歳三に惚れると思いますよ。最近のドラマはどこか子どもっぽいと感じるんですが、これは紛れもない大人の恋。お楽しみに！

### 財団歴女の座談会

## 萌えよ剣



— 新選組が大好きな、財団スタッフの歴女たち。『燃えよ剣』の“萌え”ポイントを聞いてみました。

- A: やっぱ、男たちの友情。幼馴染と運命を共有するとか、萌えるわ〜。
- B: 土方は影のサポート役というイメージがあるけれど、ほろっと弱さを見せるところに母性本能をくすぐられるんですよ。
- C: お雪が登場した途端、土方をリアルに生々しく感じました。物語の中の人だけじゃなく、本物の人間だったんだって、お雪が教えてくれるんです。

— 土方とお雪、二人については？

- B: 土方って普段怖いけど、お雪の前ではカワイイ男だね。
- A: もしかしてツンデレ!? (笑)
- B: 一途な想いを持っている土方。そんな彼を、情はあっても追いつかないのがお雪さん。未亡人だからこそ、いろんなことを諦めているのかもしれないですね。
- C: 二人は“愛し合う”というよりも、寂しさ、心の穴を共有している感じ。
- B: 土方にとってお雪は“隣に住んでるお姉さん”的な存在なのよ。安心できるというか。
- A: その距離感、色っぽいですね。
- C: 女は港のようなもの、なんです。

### 劇作家・笹部博司さん 取材中に現わる!



『身毒丸』『百物語』などの名舞台を手掛け、本公演では企画・台本・演出を務める笹部博司さんが、十朱さんの取材中に急遽ジョイント! 嬉しいハイキングに乗じて、コメントを頂きました。「初演からはほぼ全ての公演を見ています。変な言い方ですが、“今回は良かったですね”って、いつも十朱さんに言うんです。今までの舞台が悪かったという意味ではありません。とにかく、回を重ねるごとに良くなっていく。十朱さんは、お雪という役を演じながら、お雪という人生そのものを、丁寧に生き抜いている。だから、いつも新しい発見があるんだと思います」

### 目には見えない、 心の中に広がる物語

相手役も美術セットもない、簡素な舞台上にも関わらず、女優の語りで観客をグイグイと名作の世界に引き込んでいく本舞台。ため息や目線の配り方ひとつひとつが、主人公の生き様をまざまざと表現し、それに呼応するように、ピアノの繊細かつ情熱的な生演奏が、物語の情景を一気に広げていきます。この不思議な感覚はライブでしか味わえませんよ!

スタッフ 藤江真子の  
ちょっと言わせて!



# 十朱幸代 インタビュー

写真: 長谷川洋三

### 朗読劇 司馬遼太郎「燃えよ剣」～土方歳三に愛された女、お雪～

9/19(土) 15:00～(開場は30分前) | 春日井市東部市民センター

[料金] ¥3,800、PiPi会員¥3,500、学生券(25歳以下)¥1,500

全席指定、当日券同額、未就学児入場不可

[取扱い] 文化フォーラム春日井・文化情報プラザ、電話&インターネット予約、チケットぴあ(Pコード444-361)、名鉄ホールチケットセンター(☎052-561-7755)

### 唯一の共演者・ピアノ宮川彬良さんが奏でる音

実は『燃えよ剣』を読んだことが無かったという宮川彬良さん。初日に稽古を見てイメージを湧かせ、その場で作曲してしまいました。その音楽が素晴らしい、スタッフを驚かせたとか。そんな宮川さんの音楽にも注目です!



©Mikako Ishiguro